

## 国道 56 号法華津トンネル

法華津峠は愛媛県宇和島市と西予市の境にある標高 436mの峠です。峠の南側は法華津湾に面した急崖をなし、山裾から南斜面に沿って小山地が連続して5km 続き、標高 60mの宇和島市吉田町に至ります。また、峠の北側は南側よりゆるやかな起伏で 6km 続き、標高 230mの西予市卯之町に通じています。

法華津峠を越す宇和島街道は、藩政時代には参勤交代の道として利用されていましたが、明治時代になり南予地方の主要道路として交通が繁盛をきわめるようになると改修が望まれることになりました。明治 29 年 10 月の臨時愛媛県会で 6 ヶ年継続工事県道改修案が可決され、その第一期工事として吉田～卯之町間の法華津峠道路の改修が行われ、明治 34 年に法華津峠越えの県道が完成しました。この県道は昭和 28 年に二級国道松山高知線に、昭和 37 年に一級国道 56 号線に昇格し、昭和 40 年に一般国道 56 号となりました。

しかし、この旧国道 56 号法華津峠越えの道は、いくつかのヘアピンカーブを含む小屈曲の連続で、見通しがきわめて悪く、勾配も急で、幅員 4.2mの悪路でした。このため、建設省による一次改築工事として、吉田町立間～宇和町伊賀上間延長 11.0km で法華津地区改良工事が行われました。これは幅員 6.0m (全幅 8.0m)、全長 5,660m (うち法華津トンネル延長 1,320mを含む 10 本のトンネル延長 2,453m) とする計画で、工事は昭和 42 年 12 月に着手されました。工事は工程上三工区 (白浦工区、玉津工区、法華津工区) に分けられ、工事用材料、機械搬入のため中間工区では大規模な工事用道路が建設されました。また、工事中最大の法華津トンネルは底設導坑先進上部半断面工法でレール方式により施工され、他の 9 本のトンネルは上部半断面先進工法でタイヤ方式により谷を盛土しながら施工されました。工事は昭和 45 年 3 月に完了し、これにより吉田町立間～宇和町伊賀上間の延長は 11.0km から 5.9km になり、走行時間は 4 分の 1 に短縮されました。

実は法華津峠トンネルの計画は明治のはじめにもありました。白浦の旧庄屋赤松則忠が法華津トンネルの掘削による吉田～卯之町間新道の開設を計画し、自宅から天保小判を持ち出して人夫を雇って実地測量にあたりましたが、世人は狂気の沙汰として嘲笑していたそうです。しかし、当時赤松が測量した掘削地点は、現在の国道 56 号のそれにほぼ一致すると言われていています。明治のはじめに狂気の沙汰と嘲笑されていた法華津トンネルが、およそ 100 年後の昭和 45 年 (1970) に現実のものとなったこととなります。さらにそれから 42 年後の平成 24 年 (2012) 3 月には四国横断自動車道宇和島北～西予宇和間が開通し、一層安心な走行、ダブルネットワークによる信頼性の向上が実現しています。

<参考文献：四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」1990 年、愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 地誌Ⅱ (南予)」1985 年、吉田町誌編纂委員会編「吉田町誌 下巻」1976 年など>



法華津峠展望台から法華津湾をのぞむ



法華津トンネル



(地理院地図に加筆)